

第5回町田市文化芸術のまちづくり計画策定懇談会 議事概要

日 時	2024 年 10 月 21 日（月） 10 時 00 分～11 時 30 分
場 所	町田市庁舎 2 階 2-2 会議室
出席者	【委 員】 （敬称略） 山口 有次（桜美林大学ビジネスマネジメント学群教授） 長尾 洋子（和光大学表現学部総合文化学科教授） 藤枝 由美子（玉川大学芸術学部アート・デザイン学科教授） 宗田 隆由（一般財団法人町田市文化・国際交流財団） 高野 宗佳（一般社団法人町田市文化協会） 佐藤 正志（町田商工会議所） 亀田 文生（一般社団法人町田市観光コンベンション協会） 大山 茂登（木曽中学校校長） 百田 明弘（相原小学校校長） （以上 9 名） 欠席：高橋 倫正（町田市郷土芸能協会） 【事務局】 文化振興課 山田、上林、福地、池内 株式会社文化科学研究所（コンサル） 【傍聴人】 1 人
議事内容	1 前回の振り返り 2 町田市の文化芸術の特徴について ・これまでの調査結果まとめ ・町田市の文化芸術の特徴 ・他自治体との事例紹介 3 町田市の文化芸術の方向性について ・町田市の文化芸術のめざす姿 4 計画骨子案について ・（仮称）町田市文化芸術のまちづくり計画骨子案 5 その他 ・次回の日程について
配布資料	資料 0_レジュメ_町田市文化芸術のまちづくり計画策定懇談会. pdf 資料 1_第 4 回懇談会議事概要 0821. pdf 資料 2_町田市の特徴（町田市基本構想・基本計画より）. pdf 資料 3_5 つの基礎調査まとめ. pdf 資料 4_町田市文化芸術のまちづくり計画骨子案. pdf 資料 5_他自治体の事例紹介. pdf

○事務局

今回は、事業者ヒアリングから見出した町田市の文化芸術の特徴および目指す方向性について、報告を予定しております。さらに計画骨子案についても、年内の確定に向けて作成しております。事務局としては 10 年、20 年先の町田の文化芸術を検討し、「育成」という視点を軸に進めるべきではという議論をしております。委員の先生方には、施策にどのような「育成」の視点がありうるか、また骨子案の流れのわかりやすさについてご意見いただきたいと思います。

○山口委員長

まずは前回の議論について事務局から報告をお願いします。

1 前回の振り返り

(資料1 第4回懇談会議事概要について) 事務局より説明

○山口委員長

振り返りですので、ご意見なしとしてよろしいでしょうか。

<ご意見>

なし

○山口委員長

それでは資料2~5の説明をお願いします。

2 町田市の文化芸術の特徴について

・これまでの調査結果まとめ

・町田市の文化芸術の特徴

・他自治体との事例紹介

(資料2 町田市の特徴(町田市基本構想・基本計画より))

(資料3_5つの基礎調査まとめ)

(資料4_町田市文化芸術のまちづくり計画骨子案)

(資料5_他自治体の事例紹介)

以上4つの資料を事務局より説明

○山口委員長

それでは前提となる、町田市の文化芸術の特徴のまとめについて、ご意見をお願いします。

○宗田委員

2023年度町田市文化・芸術に関する市民意識調査について、何回か実施しているのでしょうか。

○事務局

2020年度にも実施し、項目を変えずにコロナ禍中とその後での回答の変化を見えています。

○宗田委員

町田市の特徴として大学生やアーティスト、若者が活動しているとありますが、過去の調査と比較して良い変化はありますか。

○事務局

若者に着目した考察はしておりません。コロナの影響はありますが総じて芸術鑑賞・芸術活動の割合に大きな変化はありません。

○宗田委員

イベントを長く継続して実施すること、ここに行くと必ず何かあるという場所があることが重要

だと思います。資料 5 の事例には開催期間が長いもの、短いものが混在していますが、短期的なイベントをどうしたら一年中継続して「あそこに行けばなにか開催している」という状態にできるのか、そのためにどう機会を増やし、発信していくのかという視点があると良いと考えます。

また、各地のイベントを見ると大道芸はひとつのキーワードになると感じます。大道芸は全国的に例が多く、実施しやすさがあります。あそこに行くとなぜか見られる、というような継続してイベントが実施可能な場所を作るのも良いと考えます。

○山口委員長

大道芸はストリート文化としてわかりやすいですね。育成という視点でみると、既存の場所に限らず、様々な発表が可能な場所を新しく育てて拠点化していくということですね。

○宗田委員

町田市内ですでに活動している団体やイベントをブラッシュアップし根付かせるという視点も施策として重要だと考えます。新しいものを作っても、根付かせるのは時間がかかり難しいものです。すでにあるものを何度も開催し、一般の方も来やすい、見やすいものに育てていくことが重要です。

○山口委員長

おっしゃるとおり、イベントを育てるという視点で既存のものをブラッシュアップし、ないものがあれば加えるということが重要ですね。

それでは本懇談会のメインとなる議論に進みたいと思います。まず議題 3 の町田市の文化芸術の方向性について、説明をお願いします。

3 町田市の文化芸術の方向性について

・町田市の文化芸術のめざす姿

(資料 4_町田市文化芸術のまちづくり計画骨子案「7. 目指す姿」) 事務局より説明

○事務局

内部ではもう少しキャッチーな表現がよいのではないかという声もあり、ご意見をいただければ幸いです。

○山口委員長

ここは重要なところですのでじっくり議論したいと思います。

○大山委員

町田といえばこれだとイメージするものがないところから目指す姿を決めるのは、非常に難しいことだと思います。身近な例では、子どもが芸術協会の書き初め展にて、その場で書道の作品を書く席書の体験があり、非常に良い取り組みだと感じました。また、ここ 10 年ほどでダンスをする中学生も増えており、なにか仕掛けをすれば参加したい子どもは多いのではないかと感じます。そういった子どもが取り組んでいるものを育てていく視点は重要ではないでしょうか。

現状あるものに目や手をかけて育成し、そのイベントに向けて若い方も町田以外の方も集まってくるような仕掛けを作っていくのが良いと思います。例としてはよさこい祭りがこの形に近いと考

えます。外からなにか持ってくるのではなく、成人式「二十祭まちだ」のように市民提案の企画を作り、市民がやりたいことを少しずつ育てていくことが町田らしさに繋がっていくのではないのでしょうか。

○山口委員長

いまイメージがないからこそ既存のものを育てていくことが、結果的に共創につながっていくと理解しました。

○百田委員

7 ページの目指す姿「町田の文化芸術がはばたき、子どもに・まちに笑顔があふれている」は良いと思います。学校教育では図工や書道で取り組んだ作品のうち、学校ごとに選ばれた作品が版画美術館に飾られます。そこに選ばれると保護者も観に来られ、文化芸術に触れる場にはなっていますが、「町田の」という意識はあまりないように思います。

また「町田の子」という詩集は長く取り組まれており、学校ごとに選ばれた子どもの詩が冊子になって図書館等に置いてあります。これだけ長く取り組まれているものは他市では例がありませんが、市民との接点は少ない状況です。学校での取り組みと市民のつながりづくりには工夫が必要だと感じます。

○宗田委員

町田市内の文化芸術に携わっている身からしますと、「町田を代表するイメージがない」ことこそが町田のプラスの部分なのではないかと感じます。多くの方が色々な文化芸術の活動をしているから代表しているものが見えないだけであって、「イメージがない」というのではなくポジティブな表現にしていきたいです。

○山口委員長

町田は全般的には非常にバランスの取れた良い点が多いので、否定的に書かないほうがよいということですね。

○佐藤委員

私も「町田を代表するイメージない」と断言することは「目指す姿」に必要ないと感じます。

冒頭で「担い手」「育成」という言葉が出てきたことから、大山委員と同様に「高知よさこい祭り」を連想しました。町田市の「高知よさこい祭り」を25年前に街の活性化のために作り上げたのは商工会議所と町田市で、町田商工会議所の課長が25年間代表を務めています。高齢者のエレクトィブダンスグループがこの会を楽しみに1年間練習したり、認知症の啓発をするNPO団体が毎年出たりと目的を持って活動し、担い手の育成もされています。しかし町田市の町なかにマンションが多くなり、なにかやろうとしても音の問題があります。路上ライブをされる方からすると、ロケーションの面で他市と大きな差があります。中心部から離れて芹ヶ谷公園で行う場合でも、ある程度の音の制限が求めます。そういうロケーションの中でも若い担い手の方々がもっと出てきやすいような雰囲気、目指す方向性の中にもぜひ入れていただきたい。

また以前、まちの青年研修研究会で街角音楽イベントを継続していました。町田市を通して商工会議所で予算を出して、月に1回町田市内で音楽活動をする団体に上演してもらっていましたが、担い手がいなくなって10年ほどで終わってしまった。文化をつなぐ担い手の育成についても盛り込

んでいただけるとよいかと思います。

○亀田委員

以前「町田はおもちゃ箱」とどなたかがご発言されていた記憶があります。色々なものがあり、色々なことができるというイメージで、「代表する文化芸術のイメージがない」のではなく「なんでもできる」という表現もありうるのではないかと考えます。発信力がないのは我々の問題ではないでしょうか。

シバヒロ公園のような人が集まる中心市街地での音楽イベントは、事業者からすると非常に魅力的で「ぜひやりたい」というお話をいただきますが、マンションに配慮して重低音は避ける方針では、太鼓は使わない、ベースは控えめにといった形でプロ仕様にはならないという残念さがあります。

芹ヶ谷公園でも桜まつりのステージを作ったり、薬師池公園でも若者が好きなことをできるイベントをしており、音楽や大道芸、桜美林大学の書道部が書道パフォーマンスを実施したりしております。しかし発信力が足りず、地の利もないため、集客が難しい。シバヒロ公園であれば多数の来場があるだろうイベントに対して、観光コンベンション協会や市がどのように発信していくかが大きな課題だと思います。

よさこい祭りも 25 年、フェスタ町田も 29 年継続して地域に根づいてきており、町田の団体の参加もどんどん多くなってきました。そういった良いところを発信して、多くの方に来ていただくことが重要です。

○山口委員長

場所を特定して賑わいを作るには周囲の方の理解が非常に重要で、理解が十分でないで開催側に意欲があっても実施が難しい。むしろ理解を総合的に高めていくことが文化芸術の実施につながるということで、非常に重要な課題だと認識しました。様々な場所を開放するとともに、周囲の理解を促進する策もあわせて考える必要がありますね。

○高野委員

「町田の文化芸術がはばたき、子どもに・まちに笑顔があふれている」という目指す姿は、非常に大事なことだと感じました。町田市文化協会の立場からできることをやっていきたいと考えておりますが、それに対して市がタイアップしていただけると充実したものになります。

「まちだ〇ごと大作戦」は本当に良いイベントだったと思いますし、それをきっかけに新たな事業の展開もありました。また版画美術館や博物館の充実を図っていただき、町田に素晴らしい文化や美術館があることを誇りに思っていたきたいと思います。既存の場所を活かしきるためには、町田市によるマッチングも必要ではないでしょうか。

○山口委員長

既存の場所を活かすためには、ある種のマッチングも重要になってくると理解いたしました。

○藤枝委員

町田市に多様なシーンがあることは素晴らしいことです。これを育成につなげるためには、アーティストとのコラボレーションや、小中学生・高校生など子どもに関わりを持たせるイベントを実施していくことが重要だと思います。発信については先ほどから話題に上がっているように、少し

散漫さや弱さがあるように感じます。町田に住む子どもや大人が向上心を持って文化芸術に触れたと思ったときに、場所のアクセスだけでなくインターネットや SNS 上の情報へアクセスできることが肝になってくると思います。興味がある人は自分でどんどん情報を調べていきますが、大多数の方はなんとなく文化芸術を味わいたいという状態で積極的に自分からは調べません。市民に文化芸術を根付かせていくためには、文化芸術にすでに傾倒している方ではなく、市民の 6 割程度の方が物理的にも情報的にも、アクセスしやすい環境を整えていく必要があります。それが結果的に「様々な文化芸術にアクセスできる町田は素晴らしい街だ」というアイデンティティを市民が持つことにつながり、町田を印象付けることができると思います。

○山口委員長

情報発信は重要な課題ですね。いろいろな文化資源も発信されていないとイメージに繋がらない。場の情報や参加団体の情報、イベントの情報など、既存の資源の情報発信も十分ではないと私自身も認識しています。町田市立博物館に所蔵されている生活文化の資源も素晴らしいものですが、インターネット上にほぼ情報がなくもったいないと感じます。ただ発信するのではなく、ストーリーのある情報が多様に発信されることが重要というご指摘と理解しました。

○長尾委員

情報発信のルートが近年多様化し技術的にも安定して、SNS の普及は目を見張るばかりの状況です。発信力においてはどのように発信したらいいか、どのようなストーリーがよいのかを含めて情報のデザインが必要になってくると思います。情報発信そのものも文化芸術の力のひとつと捉えて担い手を育成することが重要ではないでしょうか。町田市にはクリエイターが多く住まれているというデータがありましたので、そういった方も発信力の担い手育成において力を発揮できる分野があるかもしれません。

町田は商都であるという認識と誇り、屋外での市民まつり的な催しがアピールポイントだと思います。よさこい祭りなども大通りで実施することで非常に映え、賑やかな雰囲気があります。そういう文化に魅力を感じた方々が自ら担い手となって発展させてきた歴史がありますが、そこに新しい要素として芹ヶ谷公園のパークミュージアム構想、南町田駅周辺の開発のような「パーク」というアイデア、緑の潤いのようなイメージが付け加えられようとしている推移を感じております。町田市の緑の再評価と、郊外に若者や子どもの多い若いファミリーが多いという特徴の相乗効果で、ポジティブなイメージを打ち出せる時期に来ているのではないのでしょうか。お茶や書道も緑の中で体験できる機会が増えることに期待を抱いております。

○高野委員

町田は本当に緑に恵まれておりまして、20 年ほど前から町田市と町田茶道会の協働で薬師池公園にて野点をしております。市民の皆様や市の関係者の参加も増えており、私としてはもう一歩発展させていければと思っております。

○長尾委員

そういった伝統的なものとアートは、いま絡めやすい状況が生まれてきていると思います。若い方の感性も育ってきていると思うので、緑のステージの中で新たな絡み合い、連携が膨らむのではないかと思います。

○山口委員長

コラボや連携が広がっていくと良いというご指摘、育成のためには文化の情報発信のデザインや

戦略的な視点が重要であると理解しました。また、新たに何かを加えるというプラスの面だけでなく、むしろ既存のものをうまく組み合わせて維持したり作り変えたりする考え方、なにか支障があれば取り除くというマイナスとプラス、プラスマイナスゼロといった考え方も整理するうえであり得るかと感じました。

4 計画骨子案について

・（仮称）町田市文化芸術のまちづくり計画骨子案

○山口委員長

それでは最後に、議題4の計画骨子案について資料説明をお願いいたします。

（資料 4_町田市文化芸術のまちづくり計画骨子案について事務局より説明）

○山口委員長

さきほど議論いただいた「目指す姿」にあわせて全体的な骨子案の構成は変わってくるということですが、現段階でご意見がありましたらご発言ください。

○宗田委員

9 ページで「町田市民ホールは客席数が少なく、アーティスト公演を市外から呼ぶことが難しくなっています」とありますが、難しくはないと思いますので書き方を検討していただきたいです。また「1,000～2,000 人の文化芸術ホールや文化芸術活動の場への活用など検討が必要」とありますが、ホールの規模によって使い方が変わります。前回もお話したように和光大学ポプリホールは300席、市民ホールは860席ですが市民団体が使いやすく稼働率が高いです。大きいホールをいっぱいにする市民団体の活動はなかなかないので、ここの書き方は気になります。

○佐藤委員

7 の「文化芸術を鑑賞・活動する場の整備・活用」について、アンケートでは多くの市民が、映画館がほしいと回答しておりましたのでここに映画という言葉を入れることはできないでしょうか。市民ホールの1,000～2,000人という点まで言及するのであれば映画についても言及してもよいと思います。

○宗田委員

10 ページの基本方針 2 で「町田の文化芸術を継続し、文化財を継承します」とありますが、この文化財は施策 3 の「有形・無形文化財」のイメージでしょうか。

○事務局

有形・無形文化財のイメージですが、今ある町田の文化芸術も対象になりうると思っています。

○宗田委員

その文脈からすると「町田の文化芸術を継続し、財産として継承します」という言い方が良いかと思います。施策でも文化財という言葉が出てくるので、どちらの表現が適切か検討されてはと思

います。

○事務局

町田の育ってきたものを継承するというよりは、すでにある文化財的な財産のイメージですので、つながりを整理したいと思います。

○高野委員

文化の団体は年配者が多いので情報発信に難しさがあります。町田市や観光コンベンション協会は情報発信のお手伝いをしてくださっており、皆で一緒に文化を共有しようと動いているという実感はあります。小学校や中学校からも体験授業を依頼されており、老若男女あわせて協力しあっていきたいと思います。

○山口委員長

既存の方々も頑張って発信されていますが、そこにある程度お金をかけたり人を割いたりということが必要だというご指摘がさきほどもありました。

○宗田委員

本日のキーワードは、育成や継続、発信であったと思います。また路上ライブ等における音の問題や道路の規制緩和といった問題は行政の仕事だと思いますので、そこをどうするかが課題です。まとめる際に意識していただけたらと思います。

○長尾委員

10 ページの基本方針から 12 ページの課題と基本方針の順番に意味はあるのでしょうか。

○事務局

基本方針 1 が全体を包括し、2・3・4 という構成です。基本方針 1 番に共に創ること、2 番目に共に創ったものが続くこと、3 番目にそれがそばにあること、4 番目に場があることという順になっています。

○長尾委員

「～がある」という言葉ではなく、能動的な述語を使って表現してもよいと思います。文化芸術を「育てていく」「近くに作っていく」「つながる場を作っていく、繋がっていく」というように、「ある」ことに満足するのではなく、行政も民間も市民もそちらに向かっていこうという能動性をより協調したほうが、ニュアンスがよりダイレクトに伝わるのではないかと思います。また基本方針 2「続いていく」は 4 番目に持ってきたほうが基本方針のストーリーが見えてくるのではないかと感じました。

○山口委員長

今回「育成」というキーワードが出され、「育成」という物語の視点で基本方針を再構成・ブラッシュアップされていくものと思います。また文化の範囲を幅広く捉えられるよう、よりわかりやすい表現に変えていただけたら、後に幅広い対象を育成することにつながると思います。

それでは時間となりましたので議論はここまでとさせていただきます。事務局からお願いいたします。

○事務局

みなさまありがとうございました。育成という視点から報告書の見せ方が大きく変わってくる可

能性があります。今後もご意見いただければと思います。

5 （仮称）町田市文化芸術のまちづくり計画骨子案

・ 次回の日程について

○事務局

連絡事項が2点ございます。

1点目は懇談会の日程について、12月中旬に6回目の懇談会を行いたいと思っております。日程について連絡いたしますので、よろしくお願いいたします。

2点目について、今回の会議の議事要旨を作成いたしますので、公開前にご確認をお願いします。

○事務局

それでは、以上で第5回町田市文化芸術のまちづくり計画策定懇談会を終了いたします。

以上